



いしだ
石田 実
水曜会
(60分)

保育施設の整備は

問

①保育の受け皿確保の取り組み状況は。

②保育士の処遇改善や離職対策は。

③認定こども園の整備状況は。

答

①施設の改築に併せた低年齢児の定員拡充や、地域型保育事業への参入促進により、2015



はた
羽田 俊介
水曜会
(60分)

こども発達支援センターは

問

2012年11月の開設からこれまでの成果と今後の方向性は。

答

昨年度までの延べ利用人数は2万5115人で、地域連携拠点医療機関として、発達障害を診療する医師、医療機関の養成にも取り組んでいる。また、6市2町

年からの5年間で0〜2歳児までの低年齢児739人分、全体では865人分の定員増を行った。
②処遇については、国の改善措置のほか、本市独自の処遇改善加算を追加している。

また、業務負担の軽減を図る保育補助者雇上強化事業や、家賃を補助する保育士確保促進事業により、離職抑制に努めている。

③2019年4月1日時点の本市の施設数は40施設、利用者数は4627人で、認可保育施設全体に占める割合は全国比率を上回っている。

の関係市町連絡会議等では、情報共有や支援の具体策の検討を行っている。

地域で日常的に発達支援を行いながら、必要な場合には円滑に診療へ結びつくような仕組みを構築するため、教諭、保育士の研修やスタッフの派遣などによる医学的立場からの提案や支援の強化が必要と考える。

今後は、地域活動支援センター等とも連携し、子どもたちの特性を理解し、温かく受け入れる地域の実現に向けた活動も支援していく。



きむら
木村 素子
水曜会
(70分)

子ども未来館とえほんの国は

問

①子ども未来館設立に向けたスケジュールは。また、現時点での施設のイメージは。

②えほんの国の再開は。

答

①現在、基本理念や役割などの検討を進めるため、事例を調査している。方向性を取りまとめ



みやもと
宮本 宏樹
公明党
(50分)

※ポリファーマシー・ 残薬対策は

問

複数の医療機関で同じ薬効の薬が処方される重複投与が問題視されているが、高齢者のポリファーマシー・残薬対策の取り組みは。

答

国民健康保険被保険者のうち、同一成分の薬剤が月に3医療

来年度、市民や有識者の意見を聞く中で基本構想を策定していく。
最新の科学やテクノロジーを活用し、直接見て触れるなど体感できるコンテンツを想定している。
②福山の未来を担う子どもたちを健全に育むという観点で、新しい場所での新たな機能を備え、子どもたちの笑顔があふれる再開につなげられるよう、施設や機能などの在り方の検討を重ねている。
まずは、絵本を活用したイベントを実施するなど、早期の暫定的な再開をめざす。

機関以上で処方され、6カ月以上継続して受診している方を対象に保健師等の訪問指導を行っている。
重複服薬の認識の有無や服薬の状況、薬の保管状況を聞き取りしたうえで、かかりつけ医・薬局に相談するよう指導し、受診の際にはお薬手帳を持参するよう勧めている。

今後は、レセプトデータの分析などにより高齢者の服薬状況を把握し、関係機関とも連携して、より効果的なポリファーマシー・残薬対策を検討していく。

※MICE (P.5) : Meeting (ミーティング)、Incentive (報奨旅行)、Convention (会議)、Exhibition / Event (展示会 / イベント) といったビジネスイベントの総称

※ポリファーマシー : 多くの薬剤を服用することで、有害事象のリスク増加、服薬過誤などの問題につながる状態のこと。単に服用する薬剤の数が多いことではない。